

## 令和5年 市政ふれあい懇談会要旨

- 開催日時 令和5年11月23日（祝）14時～14時50分
- 開催場所 近隣センターこもれび
- 参加者 市民 若干名
- 出席者 星野市長、山元企画総務部長、中光財政部長、海老原市民生活部長、山本環境経済部長、篠崎建設部長、中場都市部長、担当課長等16名

市民：ふれあい収集についてです。私は、65歳以上の足の不自由な方でゴミ出しができなくて、自分の住んでいる所の集積所にゴミを運べないという方を支援しています。詳しくなりますけれども、1回の収集で250円程度を希望される方に支払っていただいて、そのうち支援する方へは200円程度お金をいただくという有料の取り組みで、残りの50円を組織の運営費に充てています。私は、そこの利用者と支援できる方のコーディネーターをしております。それで、ふれあい収集というのは、市独自の制度で有名ですが、他の団体、自治体の方が訪問に来て見学をされて、説明をしてもらっているというようなこともインターネットで知っています。現在のふれあい収集は、対象になるための要件が非常に厳しいです。

私たちは、その対象から漏れた方を救おうということで、活動し始めたのが、きっかけなのです。対象の制約について、だんだん緩くなっていると聞いているのですが、収集をご希望されている方は、私の5年前の資料では110名程度いらっしゃいました。現在は、その辺の状況は知らないのですが、どのように行われているかをお聞きしたい。

環境経済部長：ありがとうございます。ふれあい収集の件でご自身が支援されているということで、それは本当にありがたいことで素晴らしいことだと思っております。ゴミだけに関わらず地域の方がお知り合いになって、助け合うということが理想だと思いますので、これからも続けていただければと思っています。

ただ、それが全地区でできているかというと、そうではなく、平成31年度には161世帯ありましたが、現在、令和4年度は230世帯ということでかなり増えております。委託で行っておりますので、どなたでもということになりますと、財源が限られておりますので、いろいろと面接等を行いながら、本当に必要かどうかというところを判

断させていただき、行ってきました。ここにきて、やはり高齢化も進んでおりますので、そういった対象者が増えて件数も増えてきたのではないかと私は思っております。

今後、地域で行っていただくことが一番良いのですが、これについては基準をもう少し明確にして、皆さんにお知らせして事業を進めていきたいと思っております。今日は担当も来ておりますので、基準等については担当からお話しします。

生活衛生課長：基準については、制度がスタートして以来、特に変わっておりません。原則、お一人暮らしの65歳以上の世帯で、要支援以上ということが基準になっております。

これは、制度創設以来変えておりませんが、年々、要介護認定者が増えている事情もあり、それとともに利用者が右肩上がりが増えてきている状況であります。それで感覚的に制度が緩くなったとお感じになられたのかもしれませんが、運用は以前から一貫して行うというのが実情でございます。利用者が増えたことによって、今まで収集車1台で足りていたのですが、来年度から収集車を2台に増やして、体制を強化しながら、引き続きこの事業に取り組んでいくことを考えています。

市 民：浸水対策についてです。もう工事は終わったのでしょうか。6億円ぐらいかけていただいて、天王台南公園に浸透式の400tぐらい貯められるような貯留施設を作っていただきました。その関係で今急激な雨量に対応するという話で1時間50ミリ程度に対応するよう、市の方では目標にしていると思いますが、50ミリ程度の雨では床上浸水にはならないというような地域で住みやすい地域にしたいということで行っていると思います。これから、どのような土砂降りの雨が降るかわからないという不安があります。住民の方は、そういう不安を感じたら、車については、我孫子中学校に事前に駐車させていただけるようになっています。

そういった中で、天王台の方の常磐線の工事がありますが、それと同じように、東我孫子の方は成田線の下に90センチの管が二つあるのですが、その排出量は変わらず、そこが一番のネックだということを、今まで市の方とお話する中で詰めているのですが、その管が、直径1mか1m20cmぐらいのものを二つ貫通しなければ、急激な雨の時は400tぐらいありますから、一時的なら対応できますが、400t以上だともう排出が追いつかないわけですので、どうしても床下浸水、床上浸水するのではないかという

不安があるわけです。工事については非常に難しいと思いますが、東高野山自治会としては、そういう状況も知っていただければと思います。

建設部長：今一番排水対策が達成しているのが、天王台6丁目だと思っています。以前は、天王台幹線の常盤線の下を管が抜けないという話があって、今は流域を全く変更しまして、柴崎幹線の方に持っていくという話になりました。

それを今、JR常磐線の下の方を抜く工事をJRと協議を進めている状況です。ここが抜ければ、やっと自然排水の工事が排水路まで来るかというところです。

ただ、JR常磐線を抜くのもかなり先で、令和9年までには柴崎神社の下までつなごうというのが第1目標です。その先はその後も続きますので、年間3億円などの費用を支出して、継続して行っているという状況です。なかなか進まないでおりますが、我々としても天王台6丁目で水害があったというのは、何十年も前から知っております。やっと、天王台南公園に地中の浸透施設、やや大きなもので許容できるものが完成したということです。もうしばらくお時間をいただきたいと思っています。

市長：今回の大雨、時間にすると95ミリ。私が市長に就任した時の最大104ミリまでは達していませんが、もっと短時間の20分か30分ぐらいで降ってきたという状況です。東高野山の方でも床下浸水が発生したという話しですが、我孫子4丁目では床上浸水が発生したものですから、今日午前中は我孫子北地区で懇談会を行いまして、十数年ぶりにお叱りを受けてきたところです。水害はすぐ解消するという方法はないものですから、まず基本的な水害対策計画をしながら、応急的にはどういう方法があるかというのと、上流と下流の両面でしっかりと行うしかありません。それも下流から行ってこないとそのすぐ下でもっと悲惨な水害を起こしてしまいます。だから、着実に下流の方から広げながら行わなければなりません。

我孫子4丁目も同じように、国道6号の下を抜いてしまうと並木とつくし野を水害にさらしてしまいます。水を抜くだけでは水害のエリアを違うところに移動させるだけになってしまいます。ご指摘の東高野山の水害をなくすためには、天王台の上流ときちんと合わせながら、管路を広げていくということを行っていかないといけないので、申し訳ないのですが、着実に進めていきますという以外ない状況です。ご存じのように、我孫

子市内では50ミリ対応ができていない地域があるのですが、実際に布佐の方には、約30億円の費用をかけて作ったポンプ場のおかげで、それまでは時間27ミリで水害が出ていたエリアが、前回48ミリ降っても、床上床下も起こらない地区に変わってきましたので、やはり水害対策工事はやればやっただけの効果はあるというふうに認識しています。

我孫子4丁目でも調整池を造って、1ヶ月前の大雨では、満水でどうにか対応できましたが、今回はそれが満水を超えて、溢れてしまったものですから、床上浸水が発生してしまいました。治水課でも改めてもう一度再検証しながら、次にやれるものは何かということを検討しているところです。東高野山地域についても、水害の常習地域だということ踏まえながら、これからも検討を続けていきたいと思っていますので、もし何かありましたら、いつでも治水課の方にお声をかけいただければと思います。よろしくお願いします。

市民：自主防災組織連絡協議会の幹事をしています。協議会の会長が、自主防災組織の活動を活発にさせるために、ホームページを作ってインターネットで、誰でも見られるような形を作りたいと考えているようです。今日、市民安全課の方もおられるので、詳しい状況はご存知かと思いますので、可能であれば、市のホームページからリンクできるように、望んでいるのですが、市では、どのようにお考えか、お聞かせいただければと思います。

市民安全課長：自主防災組織連絡協議会の会長が、協議会のホームページを作られていて、各自治会の中にある自主防災組織の活動を集約し、公開して情報共有しようということで動いていただいているところのお話だと思います。担当の方でも理事会に出席させていただき、お話を聞かせていただいております。

会長が作成したホームページのリンク先を市のホームページに掲載させていただいております。市としましても今後も協力する事でお話させていただいております。

市長：市民安全課だけでなく、広報のホームページの担当課長もおりますので、共通認識はとれたと思います。